

## 2018 年度マリンバイオテクノロジー学会 若手の会シンポジウム報告

2018 年 11 月 26 日、日本大学生物資源科学部（1 号館 5 階 151 講義室）において、若手の会主催のシンポジウムが開催されました。今回のシンポジウムでは、生態学的視点から海洋ベントスの研究に取り組む国立研究開発法人産業技術総合研究所地質調査総合センター地質情報研究部門海洋環境地質研究グループ主任研究員の井口亮先生、細菌学的視点からイルカの健康管理手法の確立に取り組む三重大学大学院生物資源学研究科附属鯨類研究センターに籍を置く日本学術振興会特別研究員（PD）の瀬川太雄先生にご講演をお願いしました。

講演会場には、87 名の参加者が集い、岡田茂副会長の開会のあいさつに続き、井口亮先生には「海洋ベントスの遺伝的集団構造を俯瞰するー熱帯・亜熱帯沿岸域を中心にー」、瀬川太雄先生には「イルカの「さいきん」ーイルカを元気にしよう！ー」との演題で質疑応答を含め 1 時間ずつご講演いただきました。

井口先生には、熱帯性海洋ベントスを対象に、DNA マーカーを用いて遺伝的集団構造を解析することで実施している中心多数仮説の検証についてお話しいただくとともに、サンゴの白化現象への対応策を考える上で重要なサンゴの集団内に存在する高温ストレス耐性と関連する非中立的な遺伝子変異の把握に関する研究についてご講演いただきました。続いて、瀬川先生には、わが国で飼育されているイルカの人工繁殖に必要な技術開発の一環として、イルカ腸内容物から分離した乳酸菌の利用の検討およびイルカの体調悪化に強く関わっていることが予想される細菌の種同定および対処法の模索についてお話しいただきました。両名の先生方のご講演内容はとても興味深く、予定の時間を超えて参加者から多くの質問が寄せられました。

講演会の終了後、日本大学生物資源科学部の食堂棟 2 階において、演者の先生方 2 名を含む 67 名が参加して懇親会が開催されました。岡田副会長のあいさつ・乾杯のご発声で始まった懇親会は、演者の先生方を囲んでとても賑やかな会になりました。演者の先生方に感想をいただいたところ、両名の先生方ともに、とても有意義な会であったとのことでした。また、本学会理事の渡部終五先生、フェローの丸山正先生からもあいさつをいただき、この元気の良さを生かして研究を進め、来年度の国際会議への参加、そして行く行くは学会を盛り上げていく原動力になってほしいとの激励をいただきました。会場校の日本大学生物資源科学部海洋生物資源科学科主任の朝比奈潔教授にもごあいさついただき、様々な分野の研究者が集い多様性を大事にしてほしいとのコメントをいただきました。例年の懇親会と異なるのは、参加者の多くが学部生および大学院生だったことです。大勢の前では質問しにくいことも、懇親会場では 1 対 1 で聞くことができたり、異なる大学に所属する学生同士が交流を深めたりと、盛況なうちに会を終えることができました。

今回の若手の会シンポジウムでは、講演会および懇親会ともに、学生の参加者数が多く、これまでのものとは異なる雰囲気になりました。講演会の終了後、演者の先生方に質問

する学生がいたり、懇親会後にも、もっと演者の先生に質問したかった、との学生のコメントが出るなど、若者の好奇心をくすぐるシンポジウムになったのではないかと思います。今後も、学生を含む若手の研究者および研究者を目指す若者を引きつけるようなシンポジウムを企画・運営していきたいとの思いを新たにしました。

若手の会シンポジウム企画担当 糸井史朗・安元剛



瀬川先生



井口先生



シンポジウム会場



懇親会